



ピー!

起きてくださーい

まだ起きないね

エピソード

プラスチックの小さな玩具を持った A 児が、カブトムシの幼虫の飼育ケースをじっと見つめています。保育者が、何をしているのかな?と様子を見守っていると、A 児は持っていた玩具を口元に近付けて「ピー!」と言いながら笛を吹く真似をしました。「起きてくださーい」と飼育ケースに向かって話しています。保育者が「どうしたの?」と声をかけると、「ピーってしたら、起きるから」と話し、繰り返して笛を吹く真似をして話しかけています。「まだ出てこないね。」と繰り返しているうちに、近くで様子を見ていた B 児も持っていた小さな積み木を口元に近付けて同様に「ピー!起きてくださーい」と言っています。保育者も「なかなか起きないね」と、一緒に飼育ケースを見ていました。

保育者の思い

- 以前、子ども達が飼育ケースを見ていた時に、「この中にはカブトムシの赤ちゃんがいるよ」と保育者が話していたことを思い出し、なかなか姿を見せないカブトムシに呼びかけていたのかな。
- 友達や保育者と一緒に話したり、見たり、触れたりして、カブトムシがいつ土の中から出てくるのかなと考えたり、土の中での様子を想像したりして興味をもってほしいと思います。
- 友達のしていることを楽しそうだな、面白そうだなと感じ、自分もやってみたいと一緒に遊ぼうとする姿が増えてほしいと思います。

子どもの育ちや学び

- 飼育ケースを見てもカブトムシの幼虫は土の中で、姿が見えません。「カブトムシが土の中で寝ている」と思った A 児は、カブトムシを見たいという思いと、これまでの経験を思い出し、カブトムシの幼虫に話しかけていました。
- A 児が、カブトムシの幼虫に話している様子を見て、B 児が自分もやってみたいと同じように行動する姿は、おもしろそうだな、どうなるのかな、自分もやってみたいと、ワクワク心が動いている姿と捉えました。

家庭だったら・・・

- 子どもが興味をもったことの答えを伝えるだけではなく、視線を合わせて一緒に見たり、「何でだろうね?」と共に考えたりする中で、子どもがどのように感じているかが分かり、素敵につぶやきが聞けるかもしれません。